



長時間労働の是正必要

たじま ゆきと
田島 幸音さん(鯖江高2年)

「真面目な人間がなぜ」
県内過労自殺の遺族 悔しさ語る



会社や学校 労働時間把握せず

14時で帰ってきた遺族さんの手元には、パソコンの電源が切れていない。遺族さんは「死んだ瞬間は、パソコンが止まらなかったのか」と話している。遺族さんは「死んだ瞬間は、パソコンが止まらなかったのか」と話している。

【取材】 県内各地で過労自殺の遺族が、悔しさや怒りを語っている。遺族さんは「死んだ瞬間は、パソコンが止まらなかったのか」と話している。

過労自殺の原因の一つとして、今回の記事には労働時間が長すぎる事が挙げられている。

労働の過酷さゆえに死者が出ていることから、仕事が定時で終わる量に抑える必要性がある。しかしそうすると、生産性は落ちてしまう可能性がある。そこで、プレミアムフライデーのような、定時より早く仕事を切り上げられる取り組みをもっと導入するといいいので

はないか。必然的に、空き時間を趣味などの娯楽に使うことになり、人々の購買意欲が向上すれば、生産性が落ちる分を補うことができるだろう。仕事以外での時間が生まれることで、日々仕事に追われているという焦燥感が少しでもやわらぐことが期待できる。

「仕事をするのが偉い」というような、日本に強く根付いている文化を変えていかなければならない。課題は山積しているが、ここで改革を進めなければ過労死の問題は解決しない。働く人の意見が反映されるような社会をつかっていく必要があるのではないかな。